

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	九州大学
整理番号	A-②-7
事 業 名	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、九州大学が中国の同済大学及び韓国の釜山大学校と交流することにより、アジアにおける都市・建築環境の持続的発展を牽引するため、都市・建築環境分野はもとより、生活環境の実態や社会的・文化的背景の理解に基づいて個々の技術や政策を総合化し、環境施策を実践する人材育成を目的としている。</p> <p>これまでに、単位の相互認定や成績管理等の質の保証を伴う日本人学生の派遣及び外国人学生の受入と、双方向の交流を促進できるような取組が行われており、外国人学生には情報提供、オリエンテーション及び在籍学習状況の管理等の体制が整えられている。また、日本人学生の派遣についても、専任スタッフの雇用や奨学金の充実、英語力向上セミナー等の派遣体制の拡充が進められており、評価できる。</p> <p>教育プログラムの運営体制の確立に関しては、これまで単位取得を伴わない短期交流が主であったが、平成30年に中国の同済大学及び韓国の釜山大学校のそれぞれとダブル・ディグリープログラム協定を締結し学生の派遣を開始するなど、プログラムを本格的に始動し始めた。受入学生数についても計画通りに進んでおり、中国及び韓国の受入数バランスも良く、全て単位取得を伴った交流が行われている点は評価できる。</p> <p>また、3週間程度を必要とするサマースクールでは、各国の学事日程の違いで参加学生に制約がかかることから、コア科目と実践科目の時期の分割等の検討が成されている。</p> <p>一方で、日本人学生の派遣は予定を上回る数となっているが、実際には短期のワークショップ参加者数が多数含まれていることから、今後は長期交流数を増加させる方策の策定と実施が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	